

こまつ 10

広報

No.1173
OCT.2019
KOMATSU Monthly

世界人。 未来人。 小松人。



8月20日～21日、日本大学芸術学部と市立高校との特別授業が行われました。九谷焼や滝ヶ原石などを組み合わせて、固定概念を打ち破る新たな美術と音楽の表現に挑みました。

特集

～女子高校からの変革～
市立高校60年の今



特集 ～女子高校からの変革～ 市立高校60年の今

今年度、創立60周年を迎えた小松市立高等学校。「自主自律の精神・思いやりの心」を校訓に、芸術やスポーツ分野などにおいて活躍する数多くの人材を輩出しています。

今回は、女子校から男女共学へと時代とともに変化し、新たな挑戦を続ける「市高」を紹介します。

問い合わせ 小松市立高校 ☎47・2910

高校不足を解消！ 待望の市立高校が誕生

昭和27年頃、経済状況の安定化に伴い、国民生活は向上し、高校進学希望者は年々増加傾向にありました。

ところが当時、市内には小松高校と小松実業高校の2校しかなく、進学希望者が定員を大きく上回っていたため、昭和30年代には年間約200人も女子生徒が、金沢方面への通学を余儀なくされていました。

こうした背景から、市では女子高校設立の機運が急速に高まり、昭和35年には、市民の教養向上と良妻賢母の育成を目的とした県内初の公立女子高校が誕生します。卒業生は、後に良き家庭を築く母親としてだけでなく、教育・保育・福祉など様々な分野で活躍。女子高校の設立は、女性の社会進出と健全な社会を築く礎になりました。



▲開校当初から邦楽、茶道、華道などの文化系の活動が活発に行われています。

飛び込み競技でオリンピック選手を輩出

飛び込み競技では、浅田雅子選手(ソウルオリンピック出場)や中川真依選手(北京とロンドンオリンピック出場)を輩出。また昨年、中秀太郎選手が国体で優勝したのは記憶に新しいところです。

▶北京とロンドンオリンピックに出場した中川真依選手



ハンドボール王国・市高女子

ハンドボール部は開校6年目からインターハイに出場し、昭和48年には初優勝を果たします。また、全国選抜大会、インターハイ、国民体育大会を総なめする三冠を3度も成し遂げました。インターハイは今年で連続24回出場し、記録を更新し続けています。



キラリと光る
市高生の活躍

60年の歩み

- 昭和35年 旧上小松小学校を仮校舎として、小松市立高等学校(女子高校)を設立
- 昭和38年 校名を小松市立女子高等学校に変更
新校舎完成(小馬出町)
- 昭和60年 現住所(八幡)に新校舎が完成・移転
- 平成3年 芸術コース(音楽・美術)新設
- 平成8年 男女共学化
校名を小松市立高等学校に変更
- 平成30年 新制服に変更
- 令和元年 創立60周年



女子校を卒業したことは私の誇り

子供が多い時代に私が進学できたのは、女子校ができたおかげでした。私の在学中は選択科目や進学・就職コースがあるなど、当時から個性を伸ばす教育を行っているのが印象的でした。卒業後も活躍する人材が多い母校に改めて誇りを感じます。

今後、女子校時代から積み上げてきた良き伝統を守りながら、母校が更に飛躍することを期待しています。

同窓会会長 前川弘子さん



好きなことに打ち込めた3年間

私が入学した年は、ちょうど男女共学になった平成8年でした。部活動の立ち上げや男子生徒の進路など、先生方も手探り状態でしたが、自分たちが道筋をつけるんだという気持ちで楽しく学校生活を送っていました。

市高は、やりたいことに全力で取り組める環境が整っています。これからも生徒一人ひとりが輝ける学校であってほしいです。

同窓会副会長 高野豊大さん



▲平成8年、男女共学になって初めての入学式。

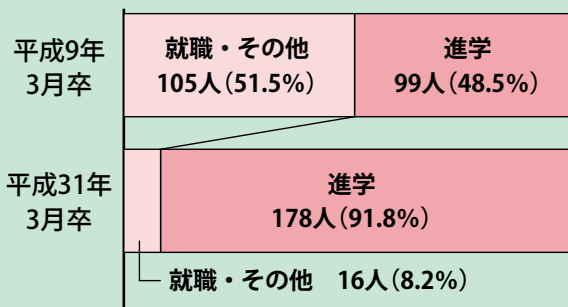
個性尊重の教育へ 時代に即した共学化

平成に入ると、市立女子高校は個性を尊重する高校として数々の転機を迎えます。

平成3年には、芸術コース(音楽・美術)を新設。そして平成8年には男女共学化への移行を決定します。男女雇用機会均等法をはじめ、男女差のない社会意識を背景に、男子生徒に門戸を開き、校名は「小松市立高等学校」に改名されました。また、教育課程の見直しや学校施設の改修、教職員の配置などが急ピッチで行われました。

こうして市立高校は、時代に即した学校づくりが進み、時代の変遷とともに多様な個性を尊重した教育を進めています。

データで見る 進学・就職状況



平成31年の進学先…金沢大、公立小松大、金沢美大、愛知県立芸大、金沢星稜大など

吹奏楽部全国大会初出場

思いやりの心を持ち、すべての人を幸せにできる愛されるバンドを目指す吹奏楽部。今年は見事、北陸代表の座を勝ち取り、悲願の全国大会初出場を決めました。



▶全国大会に出場する今年の吹奏楽部員

世界に通用する力を養う グローバル教育



輝く未来に向かつて
一人ひとりの個性を伸ばす学びの実現



4年制大学との連携事業

公立小松大学協力のもと、課題解決能力と英語力向上のための教育を積極的に導入。加えて、多彩な芸術センスを養う日本大学芸術学部との連携により、創造と表現する力を磨く特別授業を実施しています。

高校・大学の垣根を越えた連携で、新しい発想と行動力を生み出す人材の育成を目指しています。



▲写真・美術・音楽などを組み合わせた日本大学芸術学部とのスペシャル授業

海外交流で

コミュニケーション能力を高める

ロシア・アンガルスク市や台湾・彰化市での短期交流(海外青少年交流プログラム)を奨励するほか、海外修学旅行では多民族国家で英語を公用語とするシンガポールを訪れ、現地大学生との研修交流を実施しています。異文化とのコミュニケーションで、世界視野の拡大に努めています。



▲台湾・彰化市との青少年交流

英語の「聞く・話す」の技能向上

英会話での自己発信力を養うため「オンラインスピーキングトレーニング」を2週間に1回、行っています。

また、公立小松大学の留学生との交流も積極的に行うなど、ネイティブとの実践的英会話で「聞く・話す」能力を高めています。



▲オンラインスピーキングトレーニング

芸術コースの音楽専攻では毎週1回個人レッスンがあり、各楽器の専門の先生が指導。美術専攻では、2年生から油絵・日本画・デザインの3コースに分かれ、より専門性の高い授業が行われます。

また、それぞれプロの音楽家や芸術家による特別授業もあるなど、充実した学習環境が整っています。

南加賀地域で唯一の芸術コース
著名音楽家や
芸術家による特別指導

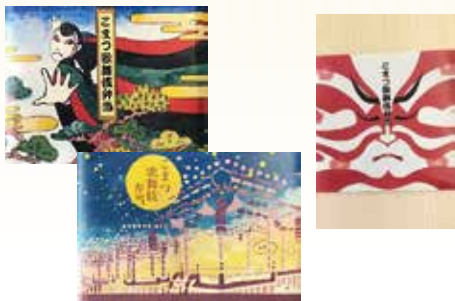


音楽専攻3年 西出真唯さん



▲プロの美術作家・西房浩二さんによる特別指導

創造力と社会性を育む 地域貢献活動



▲こまつ歌舞伎弁当の掛け紙デザイン



▲市内大型ショッピングモールの壁画デザイン



▲市民病院訪問演奏

地域の価値を 高める創作活動

芸術全般の学習効果を社会に還元する学外活動に、精力的に取り組んでいます。

美術専攻では、集客施設の壁画、地場産品のラッピング、イベント作品を制作するなど、日常や生活環境をより豊かなものに変えて、まちへの愛着を深めています。

地域への参画

地域の伝統的なお祭りやイベント、ボランティアなどに積極的に参加しています。

吹奏楽部や合唱部では、定期演奏会を公会堂で公演するほか、保育園や病院などでの訪問演奏やボランティアに取り組み、地域活動への参画と芸術の魅力を伝える活動に取り組んでいます。



◀平成24年に芸術コースの井下愛日さんがデザインした市のイメージマーク



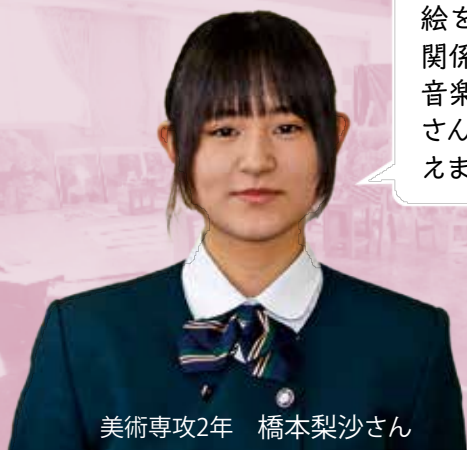
▲公立小松大学教授による出張講座



▲海外修学旅行(シンガポール)



▲留学生との交流会(公立小松大学)



美術専攻2年 橋本梨沙さん

絵を描くのが好き、美術関係の仕事に興味がある、音楽を極めたい中学生の皆さん。芸術コースで夢を叶えましょう！



参加希望者は、市立高校ホームページから申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、メール (info@konatsu-mn.ed.jp) へご連絡ください。

とき 11月9日(土) 9時～11時30分
ところ 市立高校(八幡1)

芸術コース体験入学

中学生向けに、芸術コース(美術・音楽専攻)の体験入学を実施します。授業内容や卒業後の進路、入試課題に関する指導など、盛りだくさんの内容です。保護者の皆さんの参加も大歓迎です。